

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第21号—

令和3年9月22日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

児童一人一人にタブレット端末が貸与されています

朝夕はめっきり涼しくなり、本格的な秋の訪れを感じる今日この頃です。コロナ禍の中で始まった令和3年度も、もうすぐ10月になりいよいよ後半に入ります。

さて、今年4月に平戸市教育委員会より全校児童にタブレットが貸与され、各学級で授業での活用が進んでいます。今後、学校での活用をさらに進めるとともに、学年に応じて家庭へ持ち帰り、家庭学習でも利用できるようにしていきます。タブレット端末には、次のような学習効果があると考えます。

形態	「タブレット端末」のない環境	学びの効果	「タブレット端末」のある環境
一斉学習	教師が大型提示装置等を用いて説明し、子どもたちの興味関心意欲を高めることができる。	学びの深化	教師は授業中でも一人一人の反応を把握し、その反応をふまえた双方向型の一斉授業が可能になる。
個別学習	全員が同時に同じ内容を学習する。 (一人一人の理解度に応じた学びは困難)	学びの転換	子ども一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習が可能になる。
協働学習	意見を発表する子どもに限られる。	学びの転換	一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有し、子ども同士で双方向の意見交換が可能になる。

つまり、「タブレット端末」が整うことにより、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に個別最適化され、様々な資質・能力を一層確実に育成できる教育環境が実現できます。

具体的には、授業の中で次のような活用を進めています。

- ・検索サイトを活用して、情報を収集・整理する調べ学習
- ・デジタルドリル教材（ドリルパーク）を活用した一人一人の学習状況に応じた個別学習
- ・担任から一人一人のタブレットへのデジタル教材（学習プリントや資料）の配付
- ・子どもの学習状況をタブレットで撮影し、それを同時に大型テレビへ転送して共有 等

子どもたちからは、「自分のペースで学習が進められる」「学習の達成度がわかるのでやる気が出てくる」と、おおむね好評です。担任からは、「独自の教材や資料を活用して授業を進めることができ、子どもの学びが深められる」「子どもたちが主体的に課題に向かうようになった」と、タブレットの効果を実感しています。



職場体験学習

15日（水）から16日（木）の2日間、南部中2年生の上田莉緒さん、國竹心夏さん、橋口彩那さん、針尾萌香さんの4名の生徒が、職場体験学習に来ました。2日間の就業体験を通して、職業観や社会人としてのマナーを身に付けるとともに、将来を考えるきっかけをつかんでほしいと願っています。

